

「私が考える平和な世界」

土崎小学校 6年1組 中 川 青 葉

一九四五年八月十四日、土崎空しゅうは始まりました。鳴りひびく、サイレンの音。泣きさけぶ子どもとお母さんの声。雨のように降ってくるばく弾。戦争を体験した方からお話を聞き、その光景が目にかかびました。私がふだん学習したり遊んだりしている土崎小学校の体育館も、兵隊さんの遺体でいっぱいだったと知った時、心がとても痛くなりました。

私が今回、土崎空しゅうについて学び、心に残っていることがあります。それは、「水、水、水。」という子どもの声のことです。この声は、ばく弾の破片が当たり、動くこともできない中、お母さんに必死に話している声です。痛そうな、苦しそうな声でお母さんに伝えている様子が想像できました。土崎小学校の校庭には、空しゅうで亡くなった十二人の子どもの受難の碑があります。なにも関係のない子どもが、たくさん亡くなってしまったことを知りました。もし私が戦争の時代にいたら、こわくてたまらないし、動くこともできないと思います。でも本当のこわさは、戦争を実際に体験した人にしか分からないし、きっと私が思う何百倍もおそろしい戦争だったのだと思います。

戦争は、相手の国や自分の国、人の心や体をきずつけます。一番してはいけないことだと思います。土崎空しゅうは、死者二五〇人以上という大きなぎせいを出しました。それを思うと、気持ちが暗くなります。がんばってにげた先でもばく弾により亡くなってしまったという話を聞いた時、どうすれば助かったのだろうと、ずっと考えていました。

私が考える平和な世界とは、人が争わない世界です。ウイルスや台風などによる被害は、自然のものなので仕方がありません。しかし、人が争う戦争は、自ら始めないと起こらないものです。だから、自分から争いを始めないことが大切だと思いました。みなさんにとって平和な世界とは、どんな世界だと思いますか。